

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第3回吉川市介護福祉推進協議会
開 催 日 時	平成29年12月19日(火) 午後7時から 午後8時40分まで
開 催 場 所	吉川市役所 201会議室
出席委員(者)氏名	堀田聰子委員、相羽直人委員、戸張英男委員、中里繁守委員、川尻詠子委員、村岡礼子委員、飯田大輔委員、酒井一男委員、浅見文男委員、近江谷キヌ子委員
欠席委員(者)氏名	なし
担当課職員職氏名	健康長寿部 部長 鈴木 昇 長寿支援課 課長 櫻井 敬雄 課長補佐兼高齢福祉係長 大瀧 和寛 課長補佐兼介護給付係長 石塚 晶則 介護認定係長 中村 久美 高齢福祉係主査 木村 みのり
会議次第と会議の公開又は非公開の別	(1) 第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(素案)について (2) その他
非公開の理由(会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画素案 第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画素案 概要版
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	中里繁守委員、近江谷キヌ子委員
その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>1 開会</p> <p>それでは、定刻となりましたのでただいまから、平成29年度第3回吉川市介護福祉推進協議会を開催させていただきます。ただいまの出席委員は10名中10名でございます。過半数に達しておりますので協議会が成立することをご報告申し上げます。それでは早速ではございますが会議を始めるにあたりまして、堀田会長より一言御挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
堀田会長	<p>皆さんこんばんは、第3回ということで皆様の議論、それからこちらで行われていたアンケートなど様々な素材を踏まえて、この素案をまとめていただいているということで、今日、できるだけ皆様のご意見を集約して、これをある程度の形にしていきたいということだと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。それでは早速ではございますが、議事の方に入らせていただければと思います。ここからの進行につきましては、堀田会長にお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。</p>
堀田会長	<p>(1)第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(素案)について</p> <p>よろしくお願いいたします。今回も本会議の傍聴を許可したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。傍聴希望者は都合により5人といらっしゃいます。よろしいでしょうか。それでは本会議の傍聴を可能とします。次に本委員会の議事録署名委員を選出させていただきます。恐縮ではあります指名させていただいてもよろしいでしょうか。それでは議事録署名委員を中里委員、それから近江谷委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは次第の通りに進めさせていただきます。まず、事務局の方から資料の確認と第7期吉川市高齢</p>

事務局	<p>者福祉計画、介護保険事業計画素案についてのご説明をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
堀田会長	<p>(資料説明)</p> <p>ありがとうございます。それでは事前にご覧くださったかもしれませんが、今ご説明いただいた資料についてご質問があればお願ひいたします。基本理念についても全体の議論、その後の意見紹介でお寄せくださった方もおられるかと思いますが、今回基本理念とそれを通じて実現されている地域の理想像ということで、おまとめいただいて、重点テーマも上げてくださっているという構成になっていますが、まずはご質問いかがでしょうか。質問が特になければ、基本理念と地域の将来像のところから、ご意見があればお願ひしたいと思います。まず基本理念、高齢者の幸福実感の実現、そして、地域の理想像ということで、概要の方だと4行に渡って書いてくださっていますけれども、これについてはいかがでしょうか。まだこれは表現など検討中ということで委員の皆様からのご意見をいただいて、今日文字をある程度固めたらまとめにかかるということのようですので、基本理念と理想像の所から、表現ぶりとかでも結構ですので、ご意見くださいますでしょうか。</p>
近江谷委員	<p>概要版の1枚目に強みと弱みとありますが、高い健康意識がありながら、弱みの方は食生活改善、生活習慣病予防が必要、足腰の痛みによる外出機会の減少ということで、本当に周りを見ましても、健康に関しては非常に関心が高いのですけれども、そのことについての正確な知識と言うのか、情報の提供はたくさんテレビ等新聞でもあると思うのですけれども、それを正確に知ることと、それから自分にとって必要なのだという意識ということを含めて、実行をされていないので弱みになってしまいます。健康意識は高いのですけれども、しかしながらそれができていないという現実をいつも見ております。基本目標の中に生涯を通じた社会参加により、自らの健康を維持する、という所に行くわけなのですけれども、そこら辺が非常に低くて必要であるということを実感しております。</p>
堀田会長	<p>関心は高いですし、意識はあるのですけれども、なかなか行動に移せ</p>

事務局	<p>てないということなので、とりわけこの基本目標1の所で、しっかりと行動に移せるためにはどうしたらいいのかということが重要だと思います。これは事務局が何らかコメントなさいますか。この計画の中には意識だけではなくて正しい情報を選択して行動に移すという仕掛けが、潜り込ませてありますということですが、いかがでしょうか。</p> <p>市民の関心は高いのですけれども、その情報というのが自分事になっていないということなのかなと考えております。65ページの方をご覧くださいいただければと思うのですけれども、分かりやすい健康講座の普及、啓発など、高齢者向けに講座等行ってはきているのですが、そこに参加していただけているのはやはり一部の方なのかなという所も感じている所です。そういった所から、こちらの方から、人が集まっている所に私どもが出向いて、そういう健康講座などを合わせて行っていく、そういうような取り組みが必要になってくるのかなと考えておまして、そういう取り組みが今後強化をしていきたいという所で、こういうような健康講座の普及啓発という所を入れさせていただいている所はございます。</p>
近江谷委員	<p>人が集まっている所というのは具体的にどのような所ですか。</p>
事務局	<p>例えば今回私どもですと健康長寿部といってスポーツの部分と言うのが主になりました。そういう運動に参加している方に合わせて更に健康に関する講座も行っていくなど、スポーツと健康が一体的に取り組めるような形でやって行ければと思います。又は、老人福祉センターに取られていきますと、せっかく多くの方がいらっしゃっていますので、そこに健康に関するミニ講座みたいなものを合わせて行っていくなど、そういうような所を今、あと地域型の介護予防教室ということで各自治会さんで取り組んでいただいておりますので、そういった所に出向いて健康講座と言うのを一歩進めていくというようなことを今考えている所でございます。</p>
堀田会長	<p>ありがとうございます。それに加えて、今まで多くの場合健康というと直接、食生活とかあるいは運動みたいなことをどう進めるかみたいなことが多かった訳ですけれども、何か楽しいことをやっていたら結果と</p>

	<p>して健康になるというようなことも一つとしても重点テーマの方の1に共生型健康生きがい作りというのがありますが、資料1の方ですと、57ページのカラーの部分、地域共生社会作りに向けた重点テーマの1ということで、共生型健康生きがい作りとなっていますけれども、市民劇団などの芸術活動や体操などを通じてということで、こういった健康意識が高くて運動しようとか、介護予防しようなどという意識がそこまで高くなくても、何か楽しい美しいとかという活動を通じて健康になるというような仕掛けにも更に取り組んでいかれようということだと思います。これは何らから補足されますか。重点テーマ1、あるいは市長がなさったりしますか。</p>
相羽委員	<p>他にご意見があればいかがでしょうか。まず理念と理想像の所。</p> <p>地域の理想像の方で高齢者が地域へ集いつながりとあるのですけれども、地域で集うというイメージが家の中にいないで外に出ましようという意味なのか、参加しましようというような意味合いなのか集うということの意味合いと、あと、地域で集いつながりということにつながりの部分は（地域でまで、助詞まで書くとちょっと合いませんので、両方つなげるのならつながるにつながるのは地域とつながるといいうい方の方が分かりやすいと思うのですけれども。</p>
事務局	<p>まず個々としては地域に出ていかない方というのが多くいらっしゃる、後は私ども、本年度からやっているようなアクティブシニアの地域デビューの支援と言うのをやっていて、出るきっかけをつかめない方が多々いますので、そういった方でもまずは、外に出て行ってほしいという意図で、後にご意見としても、地域に集まりたいという要望も非常に多く出ていましたので、まずは地域に出て行ってもらう、その地域に出て行って集まってもらう、みんなで集まってもらう、そこで相互に顔見知りになってつながってもらって、結果的に予防であったり生きがい作りであったりという、つながってほしいというような意図から、ここでは地域で集いつながりと言うような形で書かせていただいている所でございます。</p>
相羽委員	<p>インからアウトにという意味とコミュニティの中に参加しましよう、集まりましようという意味ですか。</p>

堀田会長	ワーキングの方はいかがですか。表現の方はいかがですか。
事務局	おっしゃる通り地域に集いつながりという所で、そのようにした方がイメージとしては伝わりやすいと思いますので、そういうような形で、異論がないようでしたら修正をさせていただければと思います。
堀田会長	基本理念は「高齢者の幸福実感の実現」ということで大丈夫でしょうか、本会議としては初めて出てきたことになりますので、前回理念で皆さんいろいろ正してくださって、間に事務局から意見紹介をしていただいて、それを踏まえて基本理念と理想像ということで、整理してくださった訳ですが、理念の方は高齢者の幸福実感の実現ということでご異存ないですか。幸福実感と言うのは市全体でも、総合計画に入っていると思うのです。特にこの地域包括ケア計画は高齢者介護保険事業計画ということで、その中でも高齢者の幸福実感の実現ということを焦点にあてたものなのですが、これはこれでよろしいですか。
近江谷委員	高齢者の幸福実感というのはどのようにとらえたらいいのか、幸福感と言うのはそれぞれ違いますし、高齢者の幸福実感と言うのはどういうことなのでしょうかと。
堀田会長	ありがとうございます。それは吉川市の上位の所にも幸福実感ということ自体は入っていて、幸福実感と言うのは特段世界的にどうやって測るべしと決まっている訳ではないのですが、そのこと自体に意味を置いているという背景もあるかもしれないのですが、幸福実感というのはどう捉えようとしてらっしゃるか、少しご説明いただけますか。吉川市で幸福実感ということ全体を計画としてもおかれていて、それを特に高齢者もと今回なされた訳ですが、幸福実感と言うのをどういう意味合いで使ってらっしゃるか、ご説明いただけるといいかと思えます。
事務局	適切な答えができるかわからないのですが、今回この幸福実感の実現、市の意識調査であったり、我々のニーズ調査の中でも、どれくらい幸福ですかと言うようなことを質問させていただいて、だいたい幸福か

	<p>などという人も含めれば8割の方が幸福だなどという風な感じを受けています。ただ、委員の皆様がおっしゃるように幸福感の捉え方と言うのは、個人個人で違ってきますので、そこを推し量るものは正直ないかと思えます。ただ、取り組みを市として基本理念の下に束ねる、施策を取り組む考え方として、高齢者の皆さんが、人それぞれなので幸福感を測るということはできないのですが、幸せになってもらえるように取り組みを進めていきたいというような、一種スローガンという所がありまして、そこに分かりやすさと下への落とし方という所で今回、少し唐突感があったのですが、高齢者の幸福実感の実現と言う形を、まず、理念としておかせていただいて、今までご意見としていただいていた、高齢者がうんぬんかんぬんというものであったり、自助力とか言う言葉というのがより具体的に幸福感が実現された姿がこの理想像なのではないかと、双方セットで考えていただいて、今回こういった物をご提案させていただきましたので、考え方としては取り組むに当たっての基本的な考え方を示すものということで、測るものは正直ありません。</p>
堀田会長	<p>この幸福実感というのは、とても特徴的な捉え方だかと思います。それぞれの幸福感の構成要素はそれぞれ人によって違いますので、実は幸福に関わる指標みたいなものも、様々存在しますものの、じゃあその指標が高まったら、それぞれの幸せの実感が高まったと言えるかというところ必ずしもそうではないと言う所があって、高齢者の幸福というのはこういう構成要素からなっているのですよと、それぞれをどうしようということよりも人にとってのそれぞれの幸福を成している構成要素はいろいろなのですけど、それをトータルで見た、それぞれの一人称での実感がどう変わったかということを中心を置いてらっしゃるという意味合いなのですよね。これはなかなか面白い考え方だと思いがらいるところですが。今の事務局の答えで答えになっていますか。</p>
近江谷委員	<p>その次に地域の理想像がありますが、これが満たされると幸福実感の実現にもなるのかなと言う風に見ていたのです。人は誰かと集まったり、一緒にいることがつながったりすることが幸福になる、一つの要素でもありますので、これを見ていたら下とつながったものがありました。</p>
堀田会長	

相羽委員	<p>他の委員の方はいかがでしょうか、この理念とそれを通じて実現されていることが、期待されている理想像みたいなものの所。</p>
堀田会長	<p>地域へ集い、と言われると高齢者がどこかで固まって集まってみたいなイメージに見えてしまうこともありますし、外に出ていてほしいのですよ、他の人たちとつながってほしいのですよということを別の言い方でも言えないかなというのが、この場ではすぐに結論は出ないと思うのですが。高齢者の地域そのものですので、家にいたら地域の人ではないのかみたいになってしまうことも、そういう見方をされる人もいるかもしれないので、もう少しないかなと思います。</p>
相羽委員	<p>出て行かなといけないのではないかと言う感じに取られるということですか。</p>
堀田会長	<p>高齢者グループがいっぱい見えるようになってしまうのと、地域とつながると言っても、つながっていない方がいらっしゃるからそういうことになるのですけれども、元々地域の構成員の方ですから、私はつながっていないのみたいなことを言われても嫌だなと。</p>
村岡委員	<p>文言を一言一句はできないと思いますので、何らかの皆さんのコメントを違和感、賛成どちらでも結構ですので、ここで吐き出していただいて、後は引き取っていただければと思いますが、他の方々いかがでしょう。</p>
中里委員	<p>地域の理想像のところ、地域という言葉がいくつも出てきて、これはもう少しきれいにならないのかなと感じました。</p>
堀田会長	<p>基本理念という言葉が3つくらい出てくるのですが、基本理念という文言、最初の吉川市地域包括ケア計画から始まって、その文言の中に基本理念、基本理念、基本理念と3つくらい中に文言が出ています。</p>
事務局	<p>これは第5次吉川市総合振興計画の基本理念と、現計画の基本理念と言うのは何なのでしょう、それは第6期のことですか。</p>

堀田会長	<p>わかりやすく整理はさせていただきます。</p> <p>基本理念は高齢者の幸福実感実現でよろしいのではないかと思うのですが、地域の理想像の所は結果として高齢者の幸福実感の実現にもつながっているということで、この後議題となる重点テーマとかを見ますと、地域共生、世代を超えて、領域を超えてみたい所も、大分意識をしているので、地域の理想像の中に明示的に高齢者がというふうに入れなくていいのではないかと思ったりします。例えば、集い、つながり、愛着が生まれ誰もが地域の一員として役割と居場所を持ち生涯活躍する地域と、生涯活躍するという中に高齢者も大分織り込まれているのかなと言うような気がしますので、高齢者という言葉が地域の理想像の中に入れるのか入れないのかというのは、入れなくても生涯活躍があれば織り込まれていて、かつこの重点テーマが共生という所ですと、あえて入れなくてもいいのではないかと思ったりもしました。これは皆さんのご意見、私が言ったからどうこうという訳ではなく、一委員としての意見ですので、皆さんこれは地域の理想像、高齢者というのが入った方がいいか、入らなくてもいいかというのはどうでしょうか。</p>
川尻委員	<p>私もここの高齢者がということが少し気になりました。高齢者の計画だから入るものなのかなと思ったのですがけれども、地域の理想像とするのであれば、別に高齢者のための地域という訳ではありませんので、なくてもいいのかなと思いました。</p>
堀田会長	<p>高齢者がと言うのが、高齢者と言うのが地域の理想像の中にも入っていた方が絶対にいいぞという方はいらっしゃいますか。</p>
浅見委員	<p>健康な人もたくさんいますので、一員として、担い手という意味から私はいい気がします。</p>
堀田会長	<p>そうすると、生涯活躍するというのが入っていたとしても高齢者と言う文字を地域の理想像にも入れておいた方がいいのではないかということですね。</p>
近江谷委員	<p>この資料が送られてきて、少し目を通したときに、ふっと浮かんだこ</p>

相羽委員	<p>とが、高齢者と言うのは点ではなくて、子どものときから青年期、壮年期を経て、高齢者になってきていますので、あまりライフステージが更年期なのですけれども、資料の中にも障害者とか子どもなどというのが入っていますけれどもそういうふうに分けると、高齢者として特定しなくても、ずっと線上で、線の中で人は生きていますので、そういうとらえ方でよろしいのかなと言う風にこの資料をみてふと浮かんできました。</p>
堀田会長	<p>特に反対するものではないのですけれども、高齢者の計画ですので、一人称の主語が高齢者になっても違和感はないのではないかと思います。吉川市として市民の理想像にあえて入れるということがあってもいいのかなと思います。</p>
事務局	<p>これは明確に入れるか入れないか決着をつけたほうがいいでしょうか。</p>
堀田会長	<p>お任せいただけるのであればそれで。</p>
飯田副会長	<p>後は市の方針もあるでしょうから、この辺で中身の方に入りたいと思います。まずは全体の構造として基本目標が、3つあっていて、そして地域共生社会の実現に向けた重点テーマということで、またそこに重点テーマが3つ上がっているというような構成になっています。重点テーマの方は、施策の方向性の中に含まれている物を押し出しているというような位置づけだと思いますが、基本目標と施策の方向性、それから重点テーマの取り出し方について、内容で言いますと、この見開きの部分の所ですけれども、この文全体について、次はご意見があればお願いいたします。</p>
堀田会長	<p>重点テーマが3つ出されていて、上の2つについては何となくイメージが分かる、この3番の対応する相談体制、検討するのが重点テーマというのが少し微妙と言うか、3年間検討して終わってしまうのか、みたいな。</p> <p>なかなか突っ込んでおりますが、検討でとどまって良いのか、それと</p>

飯田副会長	<p>も、複合課題、全世代対応で、かつ一つの世帯の中にも様々な課題を抱えていらっしゃる方もいらっしゃる訳ですけど、相談体制の構築ということなのか検討ということなののでしょうか。</p> <p>モデル的にもどこか1か所の圏域で実施するのか、検討のためだったら重点テーマで入れる必要はないのではないかと、こっちも控えめに載っているのは若干気になります、現場としてはこの総合相談が極めて重要になってくるという認識があるのですが。</p>
堀田会長	<p>これは事務局にお答えいただいて、3年間検討するというものなのか、構築と書いていただいて検討とありますけど、検討から始まるということなのか、これはいかなる感じなののでしょうか。</p>
事務局	<p>非常に迷った所ではございまして、できるだけ何らかの形での構築と言うのは考えている所ではございます。この計画の段階で、具体像が今少し示せる段階では内部で検討した結果ではない所です、市の方でもこれまで福祉総合窓口ということで、担当課レベルでそういう体制は作って対応してきている所もあるのですが、それが全市的に地域包括支援センターさんとかそういう所を含めてという所では、まだ正直姿が描けていないという所がございまして、少し表現としてはトーンダウンしてしまったというのが実情ではございました。ただ、何らかの形でこの3年間の中でどこまで進めるか分かりませんが、手を付けていきたいというのはあります。</p>
堀田会長	<p>これは地域包括の立場で川尻さんいかがでしょうか。</p>
川尻委員	<p>検討と言われてしまいますと、まだやっていないのかなと思われてしまう感じが少し現場としてはあります。体制としてはきちんとないのかもしれないのですけれども、私たち実際いろいろなご家庭の相談、高齢者の相談とはいえ、そこに不随してくるご家族の相談も日々受けていますので、障害の方の窓口と連携を取ったりということは、私たちの方では日々やっていることですので、それをまた一から作り出すのか、今私たちがやっている物を少し形を変えて構築としていくのか、という所で考えますと、検討から始められてしまうと、何となくショックかなとい</p>

堀田会長	<p>うのがありますけれども。</p> <p>現状でも、少なくとも地域包括支援センターの皆さんが、高齢者を含める世帯全体の支援をしていらっしゃると思いますので、面でいろいろ関係機関、生活困窮とか子どもから障害者年齢を問わず、社会経済的な理由の方々もと含めてくると体制の充実だったらまだわかるかもしれませんが、検討はもうやっているという感じがします。他の皆様も今多くの他の自治体と同じように様々な相談の機関がこの吉川市にも高齢者を中心とする包括支援センター、障害や子ども、難病など、生活困窮などいろいろと窓口がある状態だと思いますけれども、利用者側の立場からでも、あるいは関係機関として連携しておられる方々もいらっしゃると思いますけれども、書きぶりなり、そもそも方向性なり、ご意見があればいかがでしょうか。</p>
飯田副会長	<p>私が言ったのは現在の地域包括がどうのとか、そういうことではなく、子どもとか障害など、貧乏の問題など、それをワンストップでそこで受けて、それである程度フィルターをかけて、その後専門的に関わる人を作っていく、ワンストップのその受皿みたいなものを、多分、今後充実させていかないと、複雑化する社会の中で対応しきれていかないのではないかなという実感がありますので、そういった意味で総合相談は結構重要な感じがしたのですけれども、ですから、もしそれに重点テーマとして取り組んで行くという意味だと思ってしまいましたので、もしそれに取り組んで行くのであれば、それを検討するのが3年間かかってしまうのかというような、表現はどうでもいいのですけれども、充実でも、検討でも、構築でも、結局3年間何もやらないのかみたいな、それが、どうなのでしょうかと。</p>
堀田会長	<p>これは多分、一委員としての意見なのですけれども、初回にも申し上げたような気がするのですが、まだ、ないものであれば、ぜひとも次の3年間でできていないとまずい状態かなという感じがありまして、今のそれぞれ、各機関がやってらっしゃらないということではなくて、総合相談窓口があって、そこから振り分けるというようなことなり、より、そのためにはネットワークを作っておく必要があると思うのですが、いずれにしても検討ではまずいのではないかなという感じがします。</p>

飯田副会長	<p>躊躇される理由も分かりますが、ちゃんと構築なり充実なりと言う言葉で書いて、1年間ちゃんと検討してその次の1年間でちゃんとやってみて、最後の1年間で具体的に実施してみて、そういうことをやれば、いいのではないかなと思うのですけれども。</p>
堀田会長	<p>そもそも1年目に、社会経済的なこととか、いろいろな理由で相談が、どのようなところに寄せられて行って、それぞれどのような状況にあるのかと言うのを、調べてみるみたいなどころから次の方向性が見えてくるのだと思うのですけれども、また、総合相談窓口を作ることが必要なのか、それとも、ここに明示されているような連携だけで済むものなのか、連携が今十分に図れていないとすると、どこからどこまでが今できていない所なのか、それを1年間くらいやって、その次何か考えてみたら、ありうるのではないかと思います。</p>
相羽委員	<p>ワンストップのチャンネルで、というのはすごく共感するところですが、例えば医療機関も、あるいは障害の所も、他の分野についてもいろいろと勉強をしていて、アドバイスができる、そのスキルを各所が上げて行けば、面でもとらえる方が現実的かなと言う、あと、行政の優しさかどうか分かりませんが、今でも包括さんいっぱい少人数でやっている中で、その上あの相談もこの相談もよろしくと言われてできるのかなと言う所が、募集してもなかなか集まらないということで、だからちょっと優しく言っている感じがという所もありますけれども、大変な業務になるかと思しますので、内科の診療所みたいに、総合診療科みたいにとりあえず総合診療科ではないのですけれども、とりあえず行ってみて、自分の得意な所は見る、そうではない所はここに行ったら見てもらえるよと振り分け機能、みたいな感じの、それぞれが研修して頑張っていけばそれで行けるのではないかと。</p>
堀田会長	<p>ありがとうございました。それでいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>三年間をかけて検討と言う所では、まず、考えてはいませんでしたので、吉川市の現状としてどういう体制であれば、こういう総合相談体制ができるのかという所を検討して、形がどういう物になるか分からない</p>

堀田会長	<p>のですけれども、その辺は早期に取り組んで行きたいという思いはあります。上位計画になる地域福祉計画との兼ね合い等も出てくるかと思しますので、その辺も踏まえてこの書き方については少し検討させていただければと思います。</p> <p>ワンストップを追加する事ありきということは全然なくて、今、相羽委員がおっしゃったように、それぞれがもっと相互に学びあうという所で、スクリーニングができるようにするという、より効率的に効果的にできる体制を選んでいる所もあるかと思しますので、プラスアルファでそこに、なんらか他との連携を、地域福祉計画との整合性を持ちながら、しかし、この重点テーマとして挙げるのであればこの検討と言う形でない形で少し書き込んでいただけるとですね。それ以外の所で皆さん、この基本目標と重点テーマの柱建て、いかがでしょうか。</p>
飯田副会長	<p>重点テーマ2の共生型就労活動の機会作りと書いてあるのですけれども、今、介護保険の中で高齢者の就労はメニューにないと思うのですが、事務局としてはどういう物をイメージなさっているのでしょうか。</p>
堀田会長	<p>農業などの生産活動を通じてと書いてくださっていますが、具体的な何か現段階でこの3年間、目玉として考えてられる活動なり、計画みたいなことがおありだったらご紹介いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>介護予防の取組として一つ、高齢者の方、特に農業などに関心が高い方が多くいらっしゃるという所もございまして、また、吉川市の特徴として、なまずやネギ、米、そういった農産物と言うのも、一つ吉川の売りとしてあるような所がございまして。そういった中で共生型という所で高齢者だけでなく障害者、また一般の方含めて一緒にこういう農業などを通じて活動する中で、高齢者としては介護予防、またはたとえ要介護認定、要支援認定を受けた方でも、できる作業というのはあるかと思っております。そういった部分で役割を持って地域の中で活動していく、そういった形の生きがい作りができればということで考えている所でございます。具体的な物と言うのも正直これから検討を進めて行くという所はありますが、そういった形で、特に農業と何か関連した、高齢者の介護予防、生きがい作り、そういった所に取り組みができればと言う風に考</p>

<p>飯田副会長</p>	<p>えています。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>非常に重要だと思うのですが、重要だと思っています。</p> <p>これは、最初に委員がおっしゃったように、現状ではなかなか、年代が若い層はですけれども、介護保険を使うようになりますと、就労ということが十分に続けられていないということが今回の調査で見えてきたところですが、介護保険の介護認定を受けた後も、ご本人が希望したら社会に参加するとか、あるいは仕事を持つと言うようなことを、もう実現し始めている所もあるのですけれども、地域で活躍するというのは、最低賃金は上回れないということになっていますので、いろいろと、まだまだ課題がある、逆に言うと可能性がすごくある、ここから頑張っていけば可能性があるという所があると思いますので、農業のみならず、様々な生産あるいは社会に参加、広い意味で働くということが実現できるような形を作っていくのは非常に大きな意義があると言う風に思います。それでは他にこの重点テーマだけでなく、全体の基本目標3つ、その中に施策の方向性も整理してくださっていますので、その全体を通じてということでご意見をいただければと思います。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>重点テーマの3のところですが、私の知り合いで相談に来られている方がいまして、この相談の中身を見ますと、人生いろいろな自分の子どものこととか、相続の問題とか、健康の問題も兼ねてきて、そうするとこの課だけでは処理しきれない、相談を見ますと複合課題に対応する相談ということになりますと、すべていろいろなことが含まれてきてしまうようなことになります。そこで解決するとなると、この課を超えたものがいろいろな相談業務がありますけれども、それらを縦割りではなくて一括した何かを構築する相談が、今回のこのテーマとは別にして感じている所ではあります。いろいろな問題が絡んでいまして、税の問題もそうですけれども、そうなるとなかなか自分でも簡単に応じられない面があるのですが、でも何とかしてあげたいというのがありますし、心の中で後見制度とかいろいろありましたものですから、それらを含めて気になってはいます。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>必ずしも介護とか医療とか、健康周りだけでなく、お金のこととか</p>

酒井委員	<p>家のこととか仕事のこととかいろいろあるということですね。</p>
堀田会長	<p>このテーマから飛び超えた話になってしまうかもしれませんが、</p>
村岡委員	<p>3番を考えていく上でということですよ。事務局への期待が高いとか宿題が増えていく感じですけども、みなさまお気づきの点、ここは重要だ、賛成という所でも、もう少しこれはこうやって修正してはいかがかということでも結構ですが、村岡委員いかがでしょうか。</p>
堀田会長	<p>認知症の面がすごく心配というのがありますので、本当に認知症の人が一人で歩いていてもお家に帰れるとか、そういった部分があるとよいです。</p>
事務局	<p>認知症のことというのは、資料の1だと何ページあたりになるのでしょうか。</p>
堀田会長	<p>68、69ページくらいですね。</p>
村岡委員	<p>この辺は既に今もやっていることを充実すると言うような感じですか。新たにやりますということがもしあるのであればご紹介いただけたらと思うのですが。</p>
堀田会長	<p>認知症のサポーターを、初期のころ取ったのですけれども、その後生かす機会がどこにもないです。キャラバンメイトに入らないとできないのかよく分からないのですが、キャラバンメイトの方と十年くらい前に話したときには、子どもたちにやりたいのだという話をされていて、何かできればいいなというあれは結局できないまま終わってしまったということで、今は障害者の方ですとかやったださって。</p> <p>68ページの下の方は養成します、開催します、なのですが、開催して養成されてもアクションにつながっていないのではないかとということですよ。ここに書いてしまうとやらないといけないという、すくんでしまう所かもしれませんが、国全体としても、サポーター養成って何万人何百万人といっている訳ですけども、十分活躍できていないのではな</p>

<p>中里委員</p>	<p>いかという現状を調べてみようみたいな調査研究を今年度も昨年度もやっていたりするのですけれども、吉川市の中で、今までも養成されていて、更にご活躍いただけるためには、どのような機会があれば、あるいは他の取り組みと結び付けていけばいいかもしれませんね。もしかすると養成します開催します、のところに、なった後に活躍いただける環境をとということを一文足していただいて、具体的に何をするかは3年間で1年目に考えていただくとかでもいいかもしれないのですが、こんなこともあんなことも書き込みすぎだと思われるかもしれませんが、少しご検討いただけるといいかもしれませんね。</p> <p>重点テーマは必要なのですか。必要だから書いてあるのでしょうかけれども、特に市長などは市民劇団などの芸術活動を力を入れたいといったご意見もあるのではないかと思います、その辺はこういう作りの中でどういう様な位置づけを考えてらっしゃるのでしょうか。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>この重点テーマをと言うのは、初回、2回目を通じて、この目標、案を出され、調査結果を紹介しているときに、後ろにいっぱい並んでいると、結局何をやればいいのか分からなくて、まずこのような物を全部読む人はいないでしょうから、そうすると次の3年間は何をやるのでしょうか、ぱっと分かるということが一つでも二つでもあった方がいいのではないかなというようなことを、この会議でも意見があったりして、それでご検討くださったという経緯だったかと思います。芸術活動に対するこの吉川市での意味合いは後でご回答いただければと思いますが、これは一般論として申し上げますと、劇団なり、演劇なり、みたいな芸術あるいはアートみたいなこととこういった健康づくりということを計画上結び付ける自治体というのが次第に出てきていて、いろいろとエビデンスが背景にはあって、例えば、こういう演劇とか芸術活動みたいなものは一人ではできない訳ですよ。この地域の理想像の中にもつながりがありますけれども、人との交流の頻度がどうかということと、その人の健康の状況とか、あるいは地域の健康状態とかなり関係がありますよね。ということが明らかになってきます。あるいはこの演劇、芸術もそうだと思うのですが、笑いがあるかどうか、ということと、脳卒中のリスクとか、認知症リスクとかも世界的に関係があると言われていたりして、認知症予防とか、介護予防とか、健康作りは直接謳ってやる方の</p>

市長

仕組みもありなのですけれども、そうは言わずに、何か知らないうちにそのつながっていくとか、何か知らないうちに笑っていけるみたいな、こちらをやることで直接それを通じて健康とか言わないのですけれども、結果的に健康になる、ということが埋め込むように各自治体とか世界的になりつつあるという背景はあります。なぜここに芸術活動がでてきたかっていいますと、あるいは吉川市における市民劇団の位置づけみたいなことはお話があればお願いします。

吉川市は埼玉県と3年かけて連携を深めてきていて、その中で特に埼玉芸術劇場の先生がやっていたゴールドシアターという高齢者で素人の演劇集団というのがあります。それで、僕は県会議員時代からそこに注目していて、吉川でもぜひそれをやらせてほしいということで3年かけて、ワークショップ、練習をしたり、劇場に行っているいろいろな役者さんと交流をしたりとやってきました。今年の8月に初めて中央公民館でその劇の発表があったのですね、僕はズーっと練習から見ていて、終わった後にもインタビューをして、そうすると今まで自分の名前を呼ばれる生活をしたことがなかった。名前を呼ばれない、あるいは夫婦の中でも共通の話題がなかったのですけれども、夫婦で参加されたのでズーっと劇の練習をしていてズーっと夫婦と一緒にいた、あるいはちょっと引きこもりの生活をしていた青年がこれをたまたま申し込んだことによって、社会復帰のきっかけとなって、いまいろいろな市のイベントのお手伝いに来てくれたりするのですね、もちろんそういう高齢者の健康という部分とか社会参加というのをにらんでやっていたのですが、うちは全ての世代をOKにしようと言う形で始めていますので、その中で世代間交流もありますし、今言ったような、個人個人の課題が演劇を通して解決ができます。そして、演劇と言うのは、歌もあれば踊りもあって、バックに絵も必要ですし、音楽も必要ですし、結構総合芸術なのでいろいろな人が関われる可能性があって、決して舞台に立っている役者さんだけではありませんので、これを見たときにこれをもっと総合政策的に文化芸術だけにとらえるのではなくて、高齢者の認知症の予防であったり、子どもたちの引きこもりの支援であったり、そういった所に使っていけないかなということは今考えていて、文化振興課と言うのをどこかに作ってですね、横串を刺すような芸術、文化の展開を図りたいということを先生などに説明させていただいて、ぜひ、この中に取

	<p>り入れていく、そうなるとあまり健康に意識が高くなくても、その楽しそうとか、面白そうという所から入ってきて気付くときずなが生まれていたり、自分の健康が維持されているという状況ができるのではないかとこの方向性を探りたいと思います。</p>
中里委員	<p>是非やっていただきたいです</p>
堀田会長	<p>戸張委員いかがでしょうか。</p>
戸張委員	<p>特に意見はありません。</p>
相羽委員	<p>人生の最後を迎えたい場所を自宅と回答される方の割合が多いと書いてありますが、何の制約もなく条件もなく出すと8割くらいが家で死にたいと答えているという、その中で6割ということですので、自分たちの体制がまだまだ不十分だなと反省する部分もありますし、現実無理だよねと思っていらっしゃる市民の方、あるいは中央病院に緩和ケア病棟などがあって、そこに行ってみたいと思われる方が多い、ちょっとどういう背景があって、そういう結果がでてきているか分からないのですが、他と比べて高いという訳ではないなという印象を持ちました。この3ページ目の基本目標3の後半、介護保険制度をちゃんと持続させていかなければというのを目標にされていて、その施策としてどれが当てはまるのかなと考えたとき、状態像に合わせた介護サービス提供という所がそれに当てはまるかもしれないのですけれども、持続性と言うキーワードを持ってきて、それに対応する具体的な取り組みとしてはどういふものがあるのか教えてください。</p>
堀田会長	<p>事務局、ご質問に回答をお願いします。介護保険制度の持続可能性を高めるというのはどれが当てはまるかは。なかなか難しいですが。</p>
事務局	<p>介護保険制度の持続性を高める取り組みという所では、この概要の資料の最後のページの右側の施策の方向性の中になっている部分ですけれども、こちらの中で適切なサービスを提供することで介護予防とか重度化防止を図っていく、そのために必要な介護サービスをまずは確保していく、整備していくという所がひとつとしてあろうかと思えます。ま</p>

	<p>た、その中で施策の6の中でも、サービスの質の向上ということを上げさせていただいておりますが、市だけではなく、介護保険に関わる事業所の方々、また、市民の方と言うのも含まれてくるのかなとは思いますが、みなさん同じ、介護予防、重度化防止そういう所を共通的にもって取り組んでいく、そういった所の取り組みという所は結果として介護保険制度の持続性につながっていく、そういったところで考えている所ではございます。介護を受けない状態の方が幸せだという所は本来的には皆さんお思いの所だとは思いますが、そこを手助けをすることができれば結果として介護保険制度の持続性が高まっていくのかなという所で考えている所ではございますので、そういった所を考慮している所ではございます。そのような中で今まで市としまして、介護保険制度と言うのがどういう物なのかというような方、事を市民の方へ十分に伝えきれていないと感じておりますので、そういった取り組みですとか、サービスの質の向上という所もこれまでなかなか取り組めていなかった部分もでございますので、そういう所を中心にこれから取り組んでいきたいというふうに考えています。</p>
堀田会長	
	<p>これは、基本目標3の今の持続性を高めるという所は、今、まだ、精査中となっている部分が結構ある、78ページ以降の第7章の、つまり今後どういう体制で、今後の介護ニーズに対応していくのか、どういうサービスを整えていき、あるいは介護保険サービスではなくて、新しい総合事業の基盤作りの方かもしれないのですけれども、どんな体制で、需要に対応していくのかということにも関係していると思うのですけれども、精査はこれからとして、今後の提供体制の特徴として介護保険制度の持続性を高める、ということへの対応を語るのであれば、何らかおっしゃることはありますか。</p>
事務局	<p>現状として、サービスの提供がない物としましては、小規模多機能と言うのはあります。そこについては、住み慣れた自宅で暮らし続けるという所を支援するために必要なサービスと考えておりますので、この辺は確保していきたいという所では考えている所ではございます。</p>
堀田会長	<p>この計画の発想ですと、まずはできる限り年齢、障害、疾病の有無や違いに関わらずご活躍いただける地域を作っていこうということが結構</p>

	<p>大きく介護保険への負担を減らしていこうという物として、前面に出ているということになりますよね。でも、何らかその介護が必要となった後の体制としては、地域密着型のとりわけ今ない小規模多機能を作っていくというのが一つあるということですよ。それから、総合事業の基盤作りみたいな所はさらっと書いてありますが、より専門職、事業者さんということではない地域の中での支えあいみたいなようなことは、これは73ページの所は今固まっている物をより進めるという感じ。</p>
事務局	<p>総合事業の基盤づくりですが、市の方でできていない、総合事業が期待しているような多様な主体による部分というのができていないので、そこをやっていきたいというような、さらっと書いてしまっているのですが、そこを強化していきたいです。</p>
堀田会長	<p>現状だと生活支援コーディネーターも。</p>
事務局	<p>コーディネーター自体は今市の職員が、というような位置づけです。協議体もごぞいます</p>
堀田会長	<p>在宅医療という意味では、新規も結構書かれていますよね。全国的にも1万人当たりがすごく少なかったりあるのですけれども、それは何らか市として後押しすることはあるのですか。</p>
事務局	<p>こちらにつきましては、やはりかかりつけ医の方がそのまま訪問診療や往診ということに対応していただける体制と言うのが理想なのかなという所で、感じている所でございます。医師会さんにご協力をいただいて、まず市民の方も、何かあれば入院というような意識がまだ高いと言うような所も感じますので、そういった所は市民の方への制度と言いますか、そういう在宅医療ですとか、人生最後の段階をどう迎えるのか、そういう所を考えていただくという所から理解の促進をしていきたいです。合わせてそういった在宅医療に取り組んでいただける、環境作りと言うのも医師会さんにもご協力をいただきながら進めていければというふうに考えている所でございます。</p>
飯田副会長	<p>今事務局から説明がありましたが、かなり大事な所なので指摘と思う</p>

	<p>のですが、特別悪意がある訳ではないのですが、介護を受けない状態がしあわせだと言うような今ご説明があったかと思うのですが、それは根本に関わる話ですので、要は介護を受ける状態になったとしても、いかに幸福感というか、幸せであるというか、そういうふうな実感が持てて最後死ぬるかということが重要で、介護は必ずみんなが受けるものから、それを前提に介護保険事業計画と言うのもあるはずですので、そこは事務局も認識しておかないとまずいのではないかなと思います。それこそ、幸福実感の実現と言うのは介護を受ける状態になったとしても、それは実現していかなくてもいけない像であると認識していますので。</p>
堀田会長	
飯田副会長	<p>できる限りご活躍、介護が必要となったとしても幸せを実感できる、そのときの状況に応じた形でも、ご本人が望んだら参加ができるというような感じですね。介護を受けないようにして、受けたらもうおしまいというようなことではないということですね。</p>
堀田会長	<p>ほとんどの方が介護は受けますので、介護を受けることが悪いことだとか、幸せではないというような前提を事務局側がどこかでお持ちだとしますと、それは非常にまずいのではないかとということです。</p>
村岡委員	<p>それは認知症も同じですね、この予防早期発見となっていますが、認知症もほとんどなっていくので85歳以上になるととても出現率が高まりますので、皆様一通り何らか発言していただいていると思いますが、全体を通じて、もう一度基本理念など、目指すべき方向性、理想像の所に戻っていただいても結構ですが目標、施策の方向性、あるいはもっと細かい資料1の方の文言をご覧いただいている方々はそれに対するご指摘でも結構ですので、言い残したことがおありであればお願いします。</p>
堀田会長	<p>理想像のところの文言ですが、地域に集うつながりを大切にしているのかなと思うのですが、文章として高齢者が地域に深い愛着を持つとか、こういう形の方がいいかなと思います。</p>
	<p>今のままですと若干日本語としてのすわりが悪い感じがあるということですね。愛着を持ち、を前に出したらいかがかということですね。</p>

中里委員	<p>文章の中に将来人口の表がありますね。平成32年の人口が減ってしまいます。</p>
事務局	<p>今回、人口の欄に入れていた人数なのですが、国の方では平成27年度の国勢調査と22年度の国勢調査を比較して、そのまま伸ばしていくとどうなるかということで全国的にはそういう推計をされている所です。その状況が吉川市の現状と今ちょっと合っていない所がございますので、今後、この辺についてはもう一度見直しをして、吉川の現状に合わせた、既に32年の人口で今の人口を下回ってしまっていますので、現状に合わせた形に修正させていただければと思います。</p>
村岡委員	<p>もともとの区割りが分かりません。中学校が新しくできるのはいつになりますか。</p>
事務局	<p>平成32年度の4月になります。</p>
村岡委員	<p>それは考えていきません。中学校区ごとに一つというふうに考えるのであればもう4つ目が必要になりますし、そもそもの区割りが中学校区ではないですよね。人口のバランスをみてこうなっているのかなとは思いますが。その辺も考える必要がある、常に考えてらっしゃると思うのですが。</p>
事務局	<p>新しい中学校が平成32年度に開校するという所で、南地区になってくるのですが、こちらの地区につきました、現状で高齢化率が一桁ということで、高齢者数が少ないという所で、現状ではそのエリアをもって一つの日常生活圏域にするまではないのかなと考えているところでございます。また、今の日常生活圏域につきましたは、以前見直しをした際に高齢者数をある程度均等にするという観点から今の圏域になっている所はございます。理想とすればやはり中学校圏域ということに落とし込めればいいのかと言う風に考えているところではございますが、今回の計画では現行の日常生活圏域のままでいければと言う風に考えております。</p>

堀田会長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
川尻委員	<p>介護を受けることが悪だということではないと思うのですが、ただ、私たちが現場にいますと、もっとサービスを受けたいという方もとても多いのです。そういう方へのマネジメント力というのが私たちには求められてくるとは思うのですけれども、その中で高齢者に対しても自立、介護保険が使えるといいという物ではないよと言うような、そういうお伝えもやっぱりしっかりこの中でも入れて行っていただきたいと思えます。こういうサービスがありますよとお伝えしていくことももちろんなので、自立した生活というのはこういうことだよねと考えていくきっかけもしっかりと持って行っていただきたいなと思えます。あと認知症に関してもありましたけれども、キッズサポーターというのを私初めて聞いたのですけれども、サポーター養成講座を受けた方のフォローアップと言うのも何度かしてはいます。それを今後フォローアップしていった方についてどうするかという所を、やはり総合事業の新しい所に入っていただけるような仕組み作り、それぞれがいいものができているとは思いますが、その施策の中のつながりも大変重要なのかなというふうに思えます。</p>
堀田会長	<p>介護を受けるのが当然になってきているとはいえ、何でもくれくれではいけないというようなことも、重要ということとこの全体の構造を特に認知症、キッズサポーターやサポーターさんが新しい総合事業がまだまだこれからということで担い手として活躍いただけるような、みたいな物も例として挙げていただきたいということかと思えます。</p>
相羽委員	<p>先ほど介護保険の成り立ちみたいなものを勉強し、というような意見がありましたが、医療保険についても是非勉強していただいでみんなでお金を出し合って作っているシステムだということを知ってもらいたいです。それとつながって、前回お休みしてしまって、どういう議論があったのか分からないのですが、地域の理想像の所に、学んでそれを高齢者の方が自分で選択するという文言があるといいなと思って。どこで死ぬかとか、介護保険どう使うか、医療保険どうなのかと知った上でどれが自分に合っているかを選択していく社会、のような感じで入っていて</p>

堀田会長	<p>ただければと。</p> <p>自己決定、自己選択みたいな感じでしょうか。ちょっと悩みそうですけれども、医療、介護のみならずですよね。どこでどのように暮らしていくかということですよ。</p> <p>これは一通りお聞きして、あとは事務局引取りでよろしいのか、例えば理想像に掛かる所だけはもう少し決着をつけてほしいとかというのがあればそこで深めますが。</p>
事務局	<p>高齢者という文言の部分と、自己決定と言う部分、その辺がどこかに読み込めるような形がとれるかどうかという所をご意見いただきたいです。その後はこちらで検討させていただければと思います。</p>
近江谷委員	<p>自己決定するということは、いろいろなことを知らなければいけないと思うのです。それがあってと言う形になるかなと思いますが、その辺がいかげなものかなと言う風に思います。また別のこととして、先ほど事務局の方からのご説明の中に介護保険制度も改めて知らせるというお話があったかと思いますが、介護保険を使っている使わないという以前に介護保険制度を知らない方がまだまだたくさんいる現状と、それから資料を読んで思ったことなのだと思いますけれども、相談をだれにするのかというのが資料の中にあるかと思うのですけれども、その中で地域包括支援センターが15.2%ですか、知られていないというあたりも含めて、まだいろいろなことを市民は知らなければ自己決定に行かないのではないのかなと考えます。その中に含まれるかもしれないのですけれども、在宅療養支援センターが先ほど先生がおっしゃった、1万人に対して低いというのは、看取りとか、かかりつけ医、在宅医も含めて市民の健康に非常に影響するだろうにと思いますし、更に在宅療養支援診療所がどこなのかと言うのが私は分かりませんので、そういう情報の公開も、将来に向かってやっぱり知っておきたいということもあります。</p>
堀田会長	<p>在宅医療や人生の最終段階、自己決定みたいなことだと72、73ページに入っていますが、しかし、それだけではなくて、そもそも介護保険のこと、あるいは地域包括支援センターのこと、みたいなこともどうやって調べていくのかということですよ。知ることができないとい</p>

事務局	<p>うことですよね、これは先ほどの川尻委員のご指摘にもありましたが、介護保険等は、そこで受けられるサービスが何かあったら相談窓口みたいなことを知らせますということは当たり前のことではありますが、当たり前のことだから書かれていません。</p>
堀田会長	<p>75 ページのところですが、介護保険制度の理解、促進という所で、ずらずらと書かせていただいているのですが、ちょっと具体性は書けていないという所です。</p>
相羽委員	<p>他にいかがでしょうか</p>
堀田会長	<p>2 3 ページの人口 1 万人あたりの在宅療養支援診療所の数が少ない、というところですが、7 万人だから吉川で 2 か所ということなのですが、吉川でそれだけ必要なのかということとそれは別として、それ以外に在宅支援診療所で看取っている数と、そうではなくて、普通のかかりつけの先生が夜中に呼ばれて看取っている人の方が実は多いのですよ。そういうデータもあります。一応補足として。</p>
近江谷委員	<p>それは先ほど事務局も回答くださった、この数を増やすというよりも、しっかりとかかりつけの先生を持って、かかりつけの先生が何かあったら訪問してくださるようなことと、医師会でもやってらっしゃるということなのですね。必ずしもこの数を増やそうということを出すと、実質的には在宅療養支援をとっているかどうかわかりませんが、先生がおっしゃってくださったような、最後まで希望したら見てくださるという先生が増えていき、住人もそういう先生に出会えているようにということを進めていくということですよ。でもそれすら分からないということですよ。在宅療養支援を取っていようと取ってまいと、この先生は望んだら最後まで見てくれるかどうかということも、一般の市民にはなかなか分からないということですか。</p>
相羽委員	<p>聞くことはできるのでしょうか。</p> <p>聞くことはできますし、ここに行ったら教えてくれるのじゃない、そ</p>

<p>村岡委員</p>	<p>ういうネットワークはあると思いますし、その前に逆に自分はどこで死のうかなという所まで考えていらっしゃる方がどこまでいるかということですね。</p> <p>相羽先生に往診に行ってもらえるのですよね、という相談があるのですけれども、ちょっと一線は画していますけれども、他の区が相談に行ってくださいとお答えはしているのですね。先生がどれくらい行かれるか分からないですし、その部分は私たちを通さないで、という所で一線を引いているのですが、他の先生とか、まずはかかりつけの先生にお聞きしますので、ちょっと聞いてみてくださいとかっていう風にお伝えしています。訪問診療で、看護師さんが行ってくださるともっといいかなと思います。病院ならぬ、看護と言うのが増えるとすごくいいかなと。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>他にいかがでしょうか。先ほどの理想像の自己決定、自己選択、自己決定以外の所でも結構ですし、全体を通じてでも結構ですが。あるいは事務局から何らかこの点は確認しておきたいということがあれば出していただければ。</p>
<p>事務局</p>	<p>理想像の部分ということで今事務局の方でもちょっと悩む所はありますので、事務局の方で検討させていただいて、どのような理想像として文言にするかと言う部分については、恐れ入りますが、事務局と会長との方をお願いできればと思います。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>委員の皆様からも知る、学ぶ、そして選ぶ、決めるみたいなことを、それから言い回しとしても愛着を前に持ってきてはどうかとか、ということも出てきていたところですので、全部入れると大変なことになると思いますが少しご検討いただいて、後はお任せいただくということはどうでしょう。それ以外の所、今日も全体としてまず、重点テーマを置く意味は確認させていただいて、1の健康生きがい作り、市民劇団の吉川での意味合いの確認があつて、2番目重要だねと、それから3番目、現状を踏まえて検討でいいのかどうか、そのときには縦割りでなかなかうまくいかないような様々な相談を持ち込まれているということも踏まえて、ここを検討すべきではないかのご意見が出た所です。更に中身の方</p>

事務局	<p>で認知症に関してはサポートはそろっているけれども、アクションにつながっていないのではないかとか、育った方々が総合事業の担い手として活躍するみたいな、この施策間のつながりということも意識していく必要があるのではないかと、それからこの持続可能性ということにも関連しても介護保険制度、あるいは地域包括支援センターとか、あるものの周知それからどのように使いながらも生き生きと暮らしていくことができるのか、だから権利を知ってある物を知っていただくと同時にそれを使いながらも望んだら参加していけるという環境を作っていけるという道筋もしっかり示していくということの重要性も言われた所だったと思います。ということで今日皆様からいただいたご意見に基づいて若干の修正をしていただければと思いますが、よろしいでしょうか。ではその他ということで何かございますか。</p> <p>3 その他</p> <p>(今後のスケジュール説明)</p> <p>4 閉会</p> <p>長時間にわたりまして、いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。本日の推進協議会をこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成29年12月26日</p> <p>署名委員 中里繁守 署名委員 近江谷キヌ子</p>	